

## 離島で生活する高齢者の認知機能、身体機能と生活状況との関連

### 【代表者】

佐々木 八千代 大阪市立大学 看護学研究科 准教授

### 【共同研究者】

白井みどり 大阪市立大学 看護学研究科 教授

野田さおり 大阪市立大学 看護学研究科 特任講師

北川純子 大阪教育大学 教育学部 特任教授

柴田亜樹 大阪教育大学 教育学部 特任准教授

### 【研究概要（申請書より抜粋）】

急速な高齢化に伴い、高齢者の在宅生活の継続が推奨されている。要介護になっても可能な限り住み慣れた場所で生活できることは、高齢者にとっても社会にとっても有益であり、在宅生活を継続するためには高齢者や家族へのサポートが重要となる。さらに、わが国では平均寿命と比べて健康寿命の伸びは小さく、要介護状態である年数が延長していることから、高齢者の在宅生活の継続には介護予防も重要となる。しかしながら、在宅サービスや介護予防活動は地域によって異なっており、なかでも高齢化や過疎化が進む離島では、社会サービスが十分とは言えず、交通の利便性も低いことから、特に介護予防が重要となる。また、離島では独居高齢者が多くなっているが、インフォーマルサポートを中心としたケアシステムによって生活していると推測される。本研究では、離島で生活する高齢者の生活状況を把握し、①認知機能、身体機能と生活状況との関連を明らかにするとともに、②離島における独居高齢者の地域ケアシステムを明らかにし、介護予防を含めた在宅生活継続への支援方法について検討する。